



TSUYUKUSA

現在、当院のコロナ対策やトピックスなどを Facebook や Instagram で発信する取り組みを行っています。そのうちのいくつかを紹介いたします。お時間がございましたらぜひ「小樽協会病院」SNS へのアクセスをよろしくお願い致します。

住吉神社の花手水です。季節ごとにやっているようです。とっても綺麗でした。たまたま散歩をしていて出会えました。まだまだ小樽の穴場はありそうですね。



リハビリテーション科より

行動制限やワクチンの普及によって感染者数は減少傾向にあるものの、私達のライフスタイルや業務変化は感染拡大防止策の一環として継続を余儀なくされています。今も入院患者様のリハビリは原則ベッドサイドで行いながら、外来患者様との接触を極力避けることや、ソーシャルディスタンスや飛沫防止策の徹底。あるいは、スタッフの移動についても、ベッドサイドへの移動導線を確認しながら、第6波が来ないことを祈る今日この頃です



臨床検査科より

今年4月から稼働している当院のPCR装置です。コロナウイルス感染症の流行により、ほとんどの方が聞き馴染みのあるPCR検査ですが、Polymerase Chain Reaction（ポリメラーゼ連鎖反応）の頭文字をとってPCRと呼ばれている検査です。小樽市内の医療機関で唯一、ウイルス量の把握（CT値）までが出来る装置となります。

この検査は遺伝子を倍々に増やす工程を40回繰り返す事で、1,099,511,628,000倍（1兆）まで増幅し、ウイルス遺伝子の有無を調べる非常に鋭敏な検査です。当院は10月までの半年間で、2500件を超える検査を



画像診断科より

ドラマ「ラジエーションハウスⅡ」も始まり診療放射線技師の仕事にも注目が集まる中、新型コロナウイルスの診断にはレントゲン写真やCT検査は不可欠です。ただし、これらの検査を行う際は一般の患者様と決して交わらない様、検査時間をずらす、検査後は清掃消毒換気を徹底して行うなど、感染予防に十分配慮しながら行っています。これからますます寒くなっていきますが気を緩めることなくみんなで感染予防に努



CT画像による新型コロナウイルスによる肺炎像

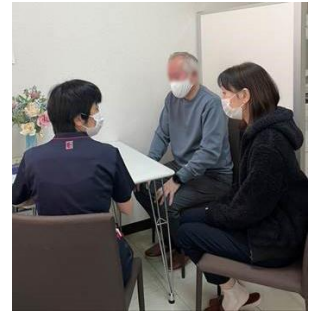


新しい病診連携 訪問栄養士さん、地域の中で活躍する

本間内科医院 院長 澤田香織

本間内科医院の澤田香織です。協会病院には日頃より、地域連携室を通じたスムーズな連携、ドクター To ドクターの緊急対応に心から感謝しております。

皆さんは、協会病院の管理栄養士さんが病院から一般のクリニックに出張し、栄養指導してくださっていることをご存じでしたか？実は、当院に管理栄養士 室田里恵先生が、毎週1回午前中にいらしてくださっております。当院の患者さんの3/4以上は生活習慣病を複数お持ちです。管理栄養士さんの存在は重要とわかっていても、小さなクリニックではなかなか採用することは難しいです。そんなとき令和2年10月6日号「つゆくさ」に紹介されていた、室田先生の地域に出るといふご活動を目にしました。地域連携室を通じて、翌日すぐにお問い合わせしましたところ、快く引き受けてくださいました。同じ診療室の一角で、患者さんに栄養指導をしていただいております。ときおり、患者さんと里恵先生の力強い笑い声が聞こえてくるのがとても嬉しく心地いいです。また、次回まで余裕のない患者さんを、その場で予約もなく、室田先生に「むちゃぶり」もあります。私と患者さんの対話もそれとなく聞いてくださっていて、いつも笑顔で臨機応変に受け付けていただいております。



食事は習慣であり文化です。わかっても変えることが出来ない患者さん、変えたくない患者さん、そもそも食べることに関心のない患者さん、それぞれにアセスメントして詳細な報告書をくださいます。診療の中では、なかなかゆっくり時間がとれない中、一方的にポイントだけを伝えたりしておりましたが、やはり対話の中で、気付く



ことのほうが主体的な行動に繋がると思います。飲酒、甘いジュース、こだわりの食品などの嗜好は気がつかないことも結構あります。糖尿病の患者さんが三ツ矢サイダーを毎日飲んでいたとか。「あんなに、甘い飲み物はダメと言っていたのに、いつのまにこんな習慣が」と報告書を楽しみに拝見しております。病気が悪い状態だから栄養指導ではなく、食べることに注意を向け、生活を振り返っていただく感じをお願いしております。

病診連携の中で、病院に留まらず、地域に出て、ご指導いただけるなんて本当に素晴らしいです。今後のご活躍を期待しております。患者さんにとって協会病院に対する親和性も高まり、貴院を紹介する際にもプラスになっておりますよ。きっと！

『訪問栄養指導』って？

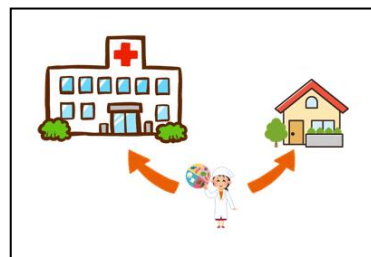
平均寿命は医療技術の進歩や生活環境の変化によって伸び続け、日本は世界有数の長寿大国となりました。しかし、平均寿命と健康寿命（健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間）との差は10歳以上の開きがあるといわれています。

健康寿命を延ばすために栄養管理は重要です。そして在宅高齢者における栄養管理はフレイルや低栄養状態に陥らせないためにさらに重要とされています。

高齢者が“可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続ける”ためには、介護や支援が必要な状態や病気になる前に栄養面からの予防的対応も必要になります。そのための仕組みが「在宅患者訪問栄養食事指導」と「診療所における外来栄養食事指導」です。

●「在宅患者訪問栄養食事指導」

在宅で生活する患者さんが、がんや摂取機能障害、低栄養状態などの指導条件に該当した場合、患者さん本人やその家族に対して、月2回まで管理栄養士が患者宅を訪問して栄養指導を行うことができます。栄養指導を行うにあたり、担当医師の訪問指示書記載や担当ケアマネジャーのケアプラン作成が必要になります。当院の患者さんでは、糖尿病のある方、高血圧や脂質異常症等の方、その他、低栄養となっている退院患者さんなどが対象となり、またこの制度では他院にかかっている患者さんへの訪問栄養指導も可能となります。



●「診療所における外来栄養食事指導」

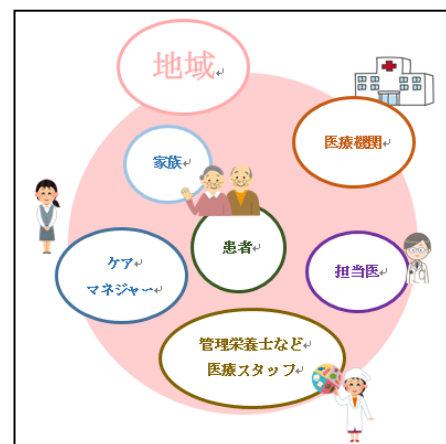
管理栄養士が在籍していない医療機関を他の医療機関に在籍している管理栄養士が訪問して行う栄養指導です。現在は市内の本間医院様などからご依頼を頂き、当院の管理栄養士が栄養指導を行っていて、今後は依頼を頂く医療機関を広げていく予定です。

比較的小さな診療所等においては管理栄養士を雇用することが現実的ではない状況などもありますが、そこに通っている患者さんにも栄養管理をすることで、多くの方がより長く住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることができるようになると思われます。



●「地域包括ケアシステム」

国は地域包括ケアシステムの構築を急いでいます。地域包括ケアシステムでは地域で高齢者を支えていくことが求められ、そのためには訪問看護、訪問リハビリテーション、訪問栄養指導、訪問薬剤指導などの在宅医療がどうしても不可欠になりますので、当院でも在宅医療に積極的に取り組んでいく必要があります。



第12回小樽病院連携カンファレンス』開催しました

地域医療福祉連携室

谷澤 泰代

2021年10月8日 当院主催としては初の ZOOM ミーティングにて第12回小樽病診連携カンファレンスを開催しました。

(*病院連携カンファレンスは、市内の在宅診療を行っている先生方を中心に定期的に市内医療機関と連携して開催されております。)



今回は、当院竹藪副院長の特別講演『終末期呼吸困難への対応』と題して非がん性呼吸器疾患と終末期、緩和治療や症状緩和の薬物療法などについて講演がなされました。

続いて梅ヶ枝内科眼科クリニック 吉田院長先生から『帰ると決めた日が吉日』というテーマで事例報告がなされました。終末期の患者さんの退院調整について「準備に時間をかけて退院のタイミングを逃すことが残念。準備不足でも走りながら調整も可能。終末期の退院調整は柔軟に」とのお話に感銘を受けました。

はじめての ZOOM ミーティング開催で、画面共有に手間取り、途中で音声途切れてしまうといったアクシデントもありましたが、無事1時間半のカンファレンスを終えることができました。チャットの活用や音声問題などまだまだ課題は残りましたが、今回の講演を参考にしていきたいと考えております。ご参加いただきました皆様、ありがとうございました。



病院周辺のごみ拾いを行いました



小樽協会病院では地域貢献活動の一環として、毎年春と秋の年2回、地域のごみ拾いボランティア活動を実施しています。今年もコロナウイルス流行を考慮の上、少人数で複数班に分けたうえ、時間差をつけて実施しています。10月30日に実施したゴミ拾いは好天にも恵まれ、病院を挟むように双葉高校から国道五号線までの区画清掃を1時間弱ほどかけて行いました。ペットボトルやたばこの吸い殻など沢山のごみが回収されました。

今回は病院の大規模停電作業と重なってしまった為、いつもよりも少ない参加人数でしたが、院長はじめ各部署からの協力で30名余りの職員が参加し、今年最後のゴミ拾いボランティア活動を終える事が出来ました。これからも清掃活動を続けることで地域の皆様に少しでも貢献できればと考えています。





ホット・ハンドむろらん様から

「タオル帽子・乳房パッド」のご寄贈を受けました

抗がん剤治療を受けている患者さんのための「タオル帽子」などを手作りし、医療機関に寄贈する活動をしているボランティア団体「ホット・ハンドむろらん」様よりタオル帽子と乳房パッドをご寄贈頂きました。

「タオル帽子」は、肌触りや吸湿性が良く、縫い目が肌にあたらないような細かい気遣いもあり、洗濯も出来て衛生的に使えます。また男性がかぶっても良いようなデザインのものもあります。「ホット・ハンドむろらん」は「病気に負けず、前向きな気持ちになれるよう精神的なサポートができれば」との思いで2010年に設立された団体です。医療機関に寄贈しているタオル帽子などは、熟練のボランティアの皆さんが一つ一つ手作りしていて、作り方の講習会も開催しているそうです。ご寄贈頂いたタオル帽子と乳房パッドは患者さんのお役に立つように大事に使わせて頂きます。ありがとうございました。



会員さま募集中!

あなたの温かい手のぬくもりを、がん患者さんに届けませんか? 現在HHMホット・ハンドむろらんでは、一緒に活動していただける会員さまを募集しております。一つ一つ手縫いで作ったタオル帽子を、一緒にがん患者さんに届けませんか? お電話にて詳しいご説明をさせていただきますので、まずはお気軽にご連絡ください。

〈活動日〉
月曜日 10:00~14:30 ※会費はかかりません。

お問い合わせ先
090-3398-5435 (代表/久保いづみ)

Facebook



HHMホット・ハンドむろらんは
下記のご協力をいただきながら活動しております。

○室蘭市社会福祉協議会 ○北海道がん対策基金助成
○北海道地域活動振興協会

立会い分娩再開のお知らせ



新型コロナウイルスの流行により発令された緊急事態宣言の終了をうけ、当院では安全に分娩できるよう感染対策を行いながら立会い分娩を再開することとなりました。新型コロナウイルスの接種が2回終了し、当院の外来で立会い分娩のオリエンテーションを受けていただくことが条件となります。詳しくは当院産婦人科外来までお問い合わせください。



編集後記 空気も冷たくなり、いよいよ雪の季節がやってきます。今年の予想は大雪になりそうと、今からため息が出てしまいますね。コロナが落ち着き穏やかな年末年始が迎えられるよう、健康には気を付けてお過ごしください

小樽協会病院広報誌“つゆくさ” NO.63
発行：小樽協会病院編集委員会
発行日：令和3年11月
発行人：柿木 滋夫
編集委員長：渡辺 直輝